



Japan
Jenaplan
Association

vol. **39** 2021. 3月号

一般社団法人

日本イエナプラン教育協会 ニューズレター

Contents

1. <4つの基本活動>再考・熟考その1 対話は何のため
謙遜で、希望と信頼と愛情に根ざした批判的思考を生むために
2. 日本イエナプラン教育協会 2021年理事選挙報告
3. 支部連携会の報告
4. 全国大会のお知らせ
5. 支部報告

<4つの基本活動>再考・熟考その1

対話は何のため

謙遜で、希望と信頼と愛情に根ざした批判的思考を生むために

リヒテルズ直子

対話はなんのため？

対話は、古くから教育の基本だ、と言われてきました。しかし実際には、伝統的な学校では、話をしているのは、教師だけ。子どもたちは、その話を聞いているだけで授業が進行していくというのがほとんどでした。ですから、対話を重視しているイエナプランは、その意味で、教育のあり方を、その原点に戻って考え直してみようということでもあるのです。

イエナプランでは、4つの基本活動の一番最初に<対話>が挙げられています。でも、<対話>は、いったいなんのために行われるのでしょうか。子どもたちの対話を、私たちは、どのように支援していけば良いのでしょうか。そのためには、対話が持っている意味そのものを、まずは大人たちが理解していな

ければなりません。私たち大人は、大半が、学校時代に＜対話＞を教育の一部として経験したことがあまりありません。私たち自身が、＜対話＞の意味を理解していないまま、子どもたちにただ口を開いて話をするのを、＜対話＞として勧めているだけなのかも知れないのです。それは、教育学的に意味のあるものでしょうか？

自分が知っていること、自分が考えていることを相手に伝えることだけに一生懸命で、それが終わったら、自分の発言に対する相手の応答に耳を貸さない、、、これでは、ダイアログ（対話）ではなくモノログ（独言）でしかありません。また、特定のテーマに沿うことなく、心に浮かぶことをただ言葉にするだけであれば、雑談、お喋りに過ぎません。これも対話ではありません。

＜対話＞は、自分の頭の中にある、他者の目には見えない「考え」を、他者に伝えるため、そして、他者の頭の中にある「考え」を掴み取るためにするものです。ですから、そこで使われる言葉は、考えを表す間接的なもので、考えそのものではありません。言葉は人の頭にある考えや感情を伝える手段です。幸いなことに、人間には、言葉を使うという、他者と繋がり、他者と共に生きるために必要な力が備わっているのです。社会的能力です。

子どもたちに＜対話＞の機会を与えるのは、それを通して、お互いの考えを共有し合い、それを通して互いの理解を深め合って共に生きていく練習をしているのです。自分の頭の中にある考えや感情を、上手に言葉で表現し、他者と共有する練習です。でも、私たち大人は、その練習をきちんとしてきたのでしょうか？ 本当に、共に生きるための＜対話＞をしているのでしょうか？

真実の一つではなく、複数の人の見方を通して近づけるもの

私たちは同じものを見ていても、同じことを共に経験していると思っていても、見えているもの、掴み取っている情報が違うことが頻繁にあります。言葉に表さなければ気がつかないのですが、何かについて話をしてみると、「ええ、そんなふうに見えていたのか」「ええ、そんな考えがあったのか」ということに気づいたり、驚いたりすることは多いものです。

「思いやり」が得意な日本人は、何でもかんでも言葉にして表現することを嫌います。そのこと自体は、日本人の美德であるとも思います。けれども、その一方で、あまりにも「思いやり」が過ぎると、「本当は自分ではこう思っているのだけど、それを言ってしまうと他の人ががっかりするだろう」と本音を言えなくなってしまうこともあると思います。＜対話＞は、この意見の違い、感情の違いを引き出し、それを通して、共通項は何であるのか、どこで私たちは、本当に理解し合えるのかを見出すプロセスでもあります。

例えば、日本人が見ている日本という国と、アメリカ人が見ている日本は、多分、まるで違うものでしょう。日本人とアメリカ人とでは、世界観も、歴史観も違うと思います。テーブルに置かれている花瓶を水差しだと思う人もいるかもしれません。男女が抱き合っても、男性にとっては単に抱き締めただけのつもりが、相手の女性にはハラスメントに感じられることもあります。二人の子どものやりとりで、一人が言った何気ない言葉が、もう一人の子には、心がとても傷つけられたと感じられることもあります。初めの子は「からかっただけだ」というかもしれませんが、もう一人の子にとっては、ずっと忘れることのできない心の傷として残るものになるかもしれないのです。

同じ出来事、同じものを見ていても、人それぞれでその受け止め方は違います。それは、一人一人が、異なる背景を持って生まれ育ち、異なる性質を持っているために興味関心が違い、異なる立場にいたために物を見るとき視点が変わるを得ないからなのです。つまり、何かそこにある物、起きたことにつ

いて、「事実」と言えるものはたった一つしかないのではなく、そこにいる幾人もの人たちの幾つもの目や耳や鼻や肌や舌が、それぞれ少しずつ違うように捉えているものなのです。物事は、だからこそ、視点(パースペクティブ)が異なる幾人もの人の目を通して、より深く、より立体的に、より正確なものとして捉えられるものなのです。だから＜対話＞が必要なのです。自分の二つの目では捉えきれなかった物を、他の人の目を借りてもっと複合的に理解するためです。他の人と共に生きていくためには、自分一人の視点だけではなく、多くの視点を通して物を見る力を養っておかねばならないのです。

ある時わたしは、ある人に、わたしがその人の行為について感じた不快感を告げたことがありました。その人が私に与えた「不快感」に気づくことで、これからの行動の仕方を改めてもらえたら、皆が気持ちよく過ごせるだろうと思ったからです。残念ながら、私たちは、自分の行動が他の人にとって不快を与えていることに気づかないでいることがよくあります。日本人が、日本では当然のように、無駄口を言わず微笑みを絶やさず、人の話を邪魔をせずに黙って聞いているだけのつもりでも、アメリカ人やヨーロッパ人にとっては「この人はこの場にいることを楽しんでいるのだろうか、なんと無口で社会性がないんだろう」と思われることはよくあります。

相手の行為が自分にとって「不快」だったと告げるのはとても勇気のいることです。「不快だ」と言われて気持ちの良い人はいないはずですから。実際、私がその話をしたとき、その人は、「どうすればその気持ちを拭い去ることができるだろう」と答えました。

残念ながら、人の感情は拭い去ることはできません。誰かが感じたこと・考えたことは消し去ることはできません。でも、自分では当たり前だと思っていた行為が、実は、その相手にとっては不快なものではなかったということを認めることはできます。テーブルの上に置かれているコーヒーカップが、窓ぎわにいる人には美しいものに見え、反対にいる人には、暗い影をおびているものにしか見えないことがあるように、同じ出来事に関わっている人が、それを正反対の印象で受け止めることは、よくあることです。そして、自分の見方は、人から消し去れと言われて消せるものではないし、人に対して自分の見方を押し付けることもできるものではありません。

例えば、日本について話をしているときに、アメリカ人が言う日本についての意見が、まるで日本人の考えとは違うからと言って、「あなたが言っているのは事実ではない」と否定することはできません。

「日本人はこんな気持ちでこうしている」ということは説明できます。誤解を解き、新しい見方を提供することはできます。ハラスメントを受けたと感じている女性に対して、男性は、「好きだから抱き締めただけだ、わたしのしたことはハラスメントではない」と言い切ることが、その女性にとってどれほど不当なものであるかということにも通じています。もしかすると、その時の男性の説明が真摯なものであったならば、あるいは、女性の気持ちを変えるきっかけになるかもしれません。いじめられた子どもが、勇気を奮い起こして「そんなことしないでくれ、僕はそれでとても嫌な思いをしたのだから」と言ったとき、たとえいじめをしたと言う意識がなくても、いじめた子は、その行為のために心が傷ついてしまった子に「いじめてない」と言い張って良いはずがありません。でも、「ごめん、気づかなかったよ。でも、あの時、僕は家でとても嫌なことがあって誰かに八つ当たりしたい気持ちだったんだ」と言えば、二人の関係は、もしかするといじめ・いじめられていた関係から、もっと深い友情に変わるかもしれないのです。

大切なのは、「そうか、自分たちがしていることをアメリカ人の目で見るとそう見えるんだ」と知ること、「好きで好きでたまらず、それを伝えたかっただけだが、相手は自分には好感を持っていなかったんだ」と知ること、「からかっているだけのつもりだったけれど、そんなに傷ついていたのか、それなら僕

は謝らなければ」そう考えることなのです。誰一人として、自分の考えを誰か他の人の考えに上書きすることはできないし、誰一人として、その人の考えが、他の人の考えよりも正しいと主張することはできません。考えも感じ方も、まずは、お互いが丸ごと受け止め、では、その次にはどうすれば、そういう誤解を避けることができるか、と歩み寄って考えることからしか、共に生きる道は見つからないのです。私たちが、＜対話＞を子どもたちに教えるのは、そのためです。考え方や感じ方の違いに気づき、その違いを乗り越えて共に生きていく、ポジティブな関わり方を見出していく為です。

パウロ・フレイレによる＜対話＞

前世紀最大の教育哲学者といわれたブラジルのパウロ・フレイレは、＜対話＞について、次のようなことを言っています。

謙遜の態度： 「謙遜の態度を欠く人、あるいは、それを失った人は、人々に近づいていくことができないし、世界の中で、その人々のパートナーになることもできない。対話は、謙遜のないところに存在し得ない」

希 望： 「対話は、希望のない雰囲気の中では続けられない。もしもその対話者たちが、今そこで（対話をする）という努力の結果、何も生み出せるものがないと考えているのならば、対話者たちの出会いは、空虚で、死んでしまっており、机上の理論に過ぎず、意味のないものになるだろう」

信 頼： 「（人への）信頼は、対話のための前提条件である。『対話に意欲的な』人は、他の人々を、直接面と向かう前でも、すでに信頼している。

愛： 「もし私がこの世界を愛していなかったら、もし私が生きるということを愛していなかったら、もし私が（人）を愛することをしていなかったら、私は、誰かとの対話に入っていくことはできない」

批判的思考： 「対話だけが、（中略）批判的思考を生む力を持っている」

いかがでしょうか？

私たちは、誰か他の人と話をしようとする時に、謙遜の態度を持ってその話に加わろうとしているのでしょうか？ 謙遜の態度とは、「私はもしかすると間違っているのかもしれない、私の見方には足りないところがあるかもしれない、相手に学ぼう」という態度です。親でも教員でも、子どもとの対話では、「もしかすると子供から何か教えられるかもしれない」という態度です。これは、独善とは正反対の、オープンで、自分の考えを仮のものとして担保した態度です。

同時に、希望のないところで、ただ、形式的に話に加わるだけでは、対話は無意味なものとなり、単なる時間の無駄でしかありません。対話は、相手がきっと異なる見方を示してくれるのではないか、私の意見に耳を傾けてくれて、共にもっと深い理解に至れるのではないか、というお互いへの信頼と愛情に根ざして行われるべきものです。どちらかが、あるいは、両方が、相手の言葉に耳を傾ける気持ちが無ければ、そこから生み出されるものは何もないし、共に生きるための、一層深い相互理解に至ることはできません。私たち大人は、子どもたちがどんな考え、どんな感じ方を持っていても、それを否定することはできないのです。その子が、そこで何を考え、何を感じたかを、その子の立場になって受け止める、そして、その次にその子にとって必要な助言を、その子が受け止められるように、愛情を持って伝える、それが、対話です。

でも、私たち大人は、そういう対話を、自分たち自身でしているのでしょうか？ 教員と教員、管理職者と教員、保護者と教員、保護者同士は、相手の言葉に、心を開いて耳を傾け、自分の率直な思いを相手に伝えられているのでしょうか。今、あなたの周りにいる人たちと、そういう対話をしていますか？

それができるためには、〈対話〉を通して私たちが獲得できるものへの信頼が必要です。

＜対話＞は、私たちの見方を広げてくれるものです。自分一人では見えていないもの、自分の二つの目では捉えられなかったものを、他の人の目と感じ方・考え方を通して、深く複合的に見るための訓練なのです。反対意見や、自分にとって一見都合が悪く感じられることも、それを通して、自分がもう一つ先の段階へ、もう一つステップを上げていくためのプロセスであるのです。

「人は、他の人の脳（ブレイン）を必要とする物なのだ」という言葉を、ヒュバートは、口癖のようによく言います。そうなのです。誰かが、自分に「ノー」と言ったり、「ちょっと待って、こういう見方もできるのでは？」と言ってくれることで、私たちは、その人の脳にどれだけ成長させられるかわからないのです。

ペーターセンの「学校共同体」

ペーターセンは、「小さなイエナプラン」の中で、こう言っています。

「養育は、学校の職員と保護者の間にお互いに帰属しあっているという感情がある時、つまり、両方のグループがオープンで自由に向き合っている時に初めて、効果を現す」「それは、両者がお互いに向かって話しかけ、アドバイスを与え合い、時には間違いを指摘し合うこともあるオープンな関係だ」「学校の職員または保護者が、こういう完全に開かれたオープン性の能力を失うとき、養育の可能性は消えてなくなる」と。

いかがですか。＜対話＞の意味を理解してくださった方はこのペーターセンの言葉の意味がよくわかるのではないのでしょうか。学校という場所は、まず何よりも、子どもたちを、未来の、可能な限り理想に近い社会に向けて育み育てる場所です。それは、教師であるか保護者であるかにかかわらず、一足先に生を受け、いずれ、子どもたちの世代に社会を譲り渡していく人々が、協力して行う仕事です。学校は、だから、皆で、ビジョンを共有する必要があるのです。大人たちが、「こんな社会があるといいね」と対話を続けながらビジョンを共有する。そして、そのビジョンに近づくために、日々様々生じる出来事や問題についての、異なる視点からの意見や考えを率直に交換し合う。時として、それは、より経験がある者、特別の知見を持っている人たちによる助言になることもあれば、ある出来事を間違っていると感じている人とそうではないと思っている人との見方の共有であることもあるでしょう。それを、オープンに、つまり、頭の中に抱えている考えを、そのまま正直に伝えられる関係があること、それが、集団としての学校の結束をさらに一層強める基盤となるのです。

このことは、イエナプランに限らず、すべての学校について言えることだと思います。モンテッソーリであれ、フレネであれ、シュタイナーであれ、一般の学校であれ、子どもたちを未来社会に向けて育てていこうとするのであれば、大人たちの、希望と信頼と愛情に根ざした、謙遜な態度でお互いを見方を受容しあう＜対話＞こそが、なくてはならない物であるはずなのです。

意見が違うから話すのをやめた、意見が違うので袂を分かって分派するとか別の学校を作った、というのは、学校共同体という、子どもたちが模範として見ている大切な社会に対して「背を向ける」、社会的関与を放り出す行為でしかないのです。

信頼と愛情に根ざした＜対話＞を実現するために

学校の先生や、企業や組織の指導者は、生徒や職員に向かって、よく「さあ、みんなのアイデアを知りたいから、自由になんでも発言してくれ」とか「この時間は、率直に意見交換する場所だからなんでも本音で話してくれ」などと言います。

けれども、こんな言葉を言われて、生徒や職員が、すぐになんでも率直に発言したり、本音で意見を言いはじめるというためしがあったでしょうか？ 指導者が、こんなふうに誘いかけなければ話し合いが始まらないということそのものが、その学校や教室や組織には、「言いたいことを自由に言えない」雰囲気があることを暗示しているようにさえ思えます。

廊下や戸外など、陰でヒソヒソ話す。憶測に基づいて発言する、、、これは、オープンとは正反対のクロードな社会です。もし学校でそういうことが起きているのなら、それは、風通しの良くない場を生み、それを放置している管理職者たちに原因があると思います。

オープンな社会は、こういう、伝統や慣習で、他の人よりも、より大きな発言力を認められてきた人たちが、率先して謙遜でオープンな態度を取ることによって生まれてきます。権威を傘に着ない、また、カリスマ性を振りかざさないリーダーが求められます。

また、こうして真に心を開いて耳を傾けようとしているリーダーに対して、こちらから心を開いて相手を信頼して語りかけていく人たちも必要です。組織で起きていることの責任を、全て管理職者に任せてしまう職員がいる場所では、学校共同体は生まれようがありません。謙遜で、希望を持ち、信頼と愛情に根ざした語りかけは、職員の側にも、保護者にも必要です。それが、主体性のある市民の態度です。

でも、どうしたら、そういうリーダーとそういうメンバーが生まれるのでしょうか。

ペーターセンは、ここでも洞察力を発揮しています。良い＜対話＞に基づく学校共同体には、遊びやユーモアを通じた共感の場、人間としての喜び、苦しみ、悲しみを共有する催しが必要なのです。遊びや催しは、人と人との間を、役職や立場を超えてつなぐものです。遊びや催しを通して、常に、共に笑い、共に涙を流し、誰かが失敗したり苦しんでいる時にユーモアでその場を和ませる、、、そうしたことの積み重ねが、「私たちは皆同じだね、みんな一生懸命生きているんだ、苦しい時には、ちょっと声をかけてあげればいいんだ」という信頼関係を生んでいくのです。

よく、イエナプランの4つの基本活動と聞くと、いきなり＜対話＞から始めようとしします。でも、本当の＜対話＞を実現するには、信頼関係を築いておかなければなりません。だから、イエナプランスクールでは、新年度が始まり、新しいグループになるたびに、最初の1ヶ月ぐらいいは、対話や仕事の時間を割いても、たくさん遊びます。

大人たちも、そうすべきなのです。新年度になって新しい職員と新しい保護者が入ってきたら、まずみんなと一緒に心の底から笑い、「ああ、ここにきてよかった」とみんなが思えるような、家族と同じくらいに安心してものを言い合える関係を作ること、全てのエネルギーを費やしても良いくらいです。それができれば、怖いもの無し。その集団に自分から進んで関わろうとする人たちが、うずうずと何かしたくてたまらないという気持ちになっているはずだからです。

そうすれば、＜対話＞は愛情と信頼で満たされ、誰かの意見を聞かずにおれなくなり、＜仕事＞には力が漲ってくるはずです。

速報

日本イエナプラン教育協会 2021年理事選挙報告

日本イエナプラン教育協会選挙管理委員 浅野聡子・田村悠子

2021年3月21日（日）に、2名の理事の任期満了に伴い、新たに3名の理事を選出するための選挙を行いました。

5名の方の立候補があり、選挙の結果、原田友美さん、平山直樹さん、矢澤あいりさん（五十音順）の3名が選出されました。

5月に開かれる総会での承認を得て、正式に協会の新体制がスタートします。

どうぞ宜しくお願いいたします。



支部連携会の報告

日本イエナプラン教育協会理事 川崎知子

事務局会の話し合いで、支部同士がお互いにどんな活動をしているかを知らないことが話題になりました。そこで、支部連携会をオンラインで行うことにしました。



1回目は11月27日（金）に行いました。事務局合わせて20名弱の参加でした。

自己紹介の後、それぞれの支部の悩みなどを共有しました。「単発の勉強会になってしまう。親のネットワークはできたけれど、子どもたちとも活動したい。」「コロナ禍で集まれず、全ての勉強会がオンラインになってしまい、地域性が薄くなってしまう。」などが出ました。

今後、もっと支部と協会員との関わりを増やしていきたい、オンラインを利用して支部を越えてテーマごとに集まると良い、もっともっと情報共有していこう、という話になりました。

さらに、そもそも支部とは何だろう？という問いが出てきました。支部の定義や約束などを作った方が良いということになり、事務局で話し合わせてもらうことになりました。

そして、1月16日（土）に第2回を行いました。この時も事務局合わせて20名弱の参加でした。事務局より以下を提案しました。

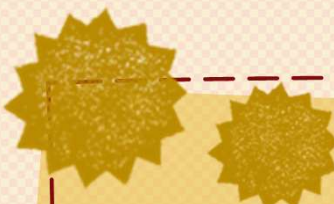
- 立ち上げたままになっている支部もあるので、年に1回は活動して欲しい。
- フェイスブックのグループページに積極的に投稿し、交流の場として欲しい。
- 支部代表の方となかなか話す時間が取れないので、事務局になってもらい、事務局会に参加してもらえないか。
- 支部代表は、議決権のある正会員でいて欲しい。

これらのことについて、一つずつ確認をしていきました。実は、支部によっては、代表という言葉を使いつらい、“イエナプランぽくない”と感じているということも分かりました。話の中で、愛知(豊田)支部は代表ではなく、複数「世話人」制をとっており、持ち回りで勉強会の企画をしていることを教えてくれました。支部によって、代表、世話人、支部長など、様々な呼び方があって良い、という話になりました。支部のメールアドレスに連絡する際、協会員の方にとって、名前が載っていた方が連絡しやすいだろうということで、今回のニュースレターの支部一覧から、代表（世話人・支部長）の名前を載せることにしました。どうぞよろしくお願いいたします。

今後も、支部の方々と連携して、協会をもっともっと盛り上げていきたいと思います。



全国大会のお知らせ




今年の全国大会も、昨年に引き続き、

新型コロナウイルスの影響を考慮してオンラインで行うことにいたしました。

日時、場所など決まりましたらHPやメールマガジン等でお知らせいたします。

どうぞお楽しみに！



支部報告（2020年9月～2021年2月）

【宮城支部】

毎月1回の例会を開催しています。県内を中心に常時5～10名ほどの参加者で学び合っています。

《活動日、内容の報告など》

初期の頃は「20の原則」を読み合う活動を行ってきました。その後、全国大会（2020年）を仙台で開催することになり、その準備を進めることを活動の中心にしてきました。全国大会の準備そのものがメンバーの学びになるようにその都度テーマを設けて「対話」「遊び」「仕事（学び）」「催し」を意識しての例会を繰り返してきました。

2020年の全国大会（テーマ：「催し」）はコロナ禍のためオンライン開催となりましたが、そこを1つの目標に支部としての学びを続けてこられたことに価値があったと感じています。

《今後の予定など》

今後も、毎回テーマを決めて例会をオンライン開催をしています。

《その他》

活動の記録や例会についてはこちら

<https://www.facebook.com/groups/673850352995194>

（報告：本川良）

【千葉（浦安）支部】

11年前に「イエナカフェ@浦安」から始まりました。

《活動紹介》

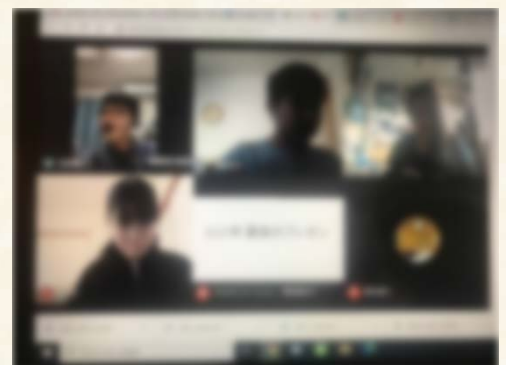
1月30日(土) 公民館主催《子育て応援講座》に協力。タイトルは「多様な生き方をみてみよう！」
協会理事でもある川崎知子さんを迎えての講演と話し合いの会。(zoomで)

小学校を辞めてオランダに移住。その後帰国して広島・福山市の小学校の先生に。

川崎さんの自由で思いを実現する力にママたちは圧倒されながらも、自身の生き方を考える機会になりました。

浦安の「小さなイエナスクール」は昨年3月からはon lineで開催。
Google Meetで、近況報告やクイズ、対話やプレゼンを通して交流。

これまで公民館など公共施設を借りて開催してきましたが、
4月から市内の店舗を共有することで、拠点を持てることに。
より「イエナプラン」に近づけるのでは！とワクワクしています。



また協会会員の漆原幸子さんを中心に千葉市でフリースクールを立ち上げるなど新たな活動が生まれています。近々、千葉県全体での活動について話し合う機会を持てたらと話し合っています。

(報告：山田順子)



【東京（多摩）支部】

東京都多摩地域で活動しています。現在はオンラインのみの活動です。

《活動日、内容の報告など》

2020. 9. 27 神戸支部との共催で大日向小学校の皆さんと対話しました。

2021. 1. 21 多摩支部顔合わせと2021年の勉強会計画づくりをしました。

2021. 2. 19 イエナプランの歴史と20の原則等の動画を視聴し、「イエナプランとは何か？」を対話しました。

《今後の予定など》

4月末～5月にイエナプランガイドブックの読書会、イエナスクールゆめまるの実践から見る子どもたちの姿と20の原則の関連について学ぶ会等を予定しています。

(報告：新堀貴子)

【神奈川（湘南）支部】

イエナプラン教育から見える世界を学校だけでなく家庭や地域にも広げよう。

- ・子どもの「ありのまま」を生かした学びの環境
 - ・お互いの「違い」を認め、そこから学ぶ子どもたちの姿
- そんなことをいろんな立場の人たちで意見交換しています。

《活動日、内容の報告など》

2020年9月18日（金）@zoom（参加者：3名）

リヒテルズさんの著書「オランダの性教育」の本をもとにオランダの教育への考え方をシェアする会でした。イエナプランについても話題が及び、文化や歴史について色々話が及ぶ勉強会になりました。

2020年10月21日@zoom（参加者7名）寺子屋オンライン「イエナプラン教育ってなかに？」

今まで対面で行なっていたイエナプラン勉強会をはじめオンラインで開催。今回は「イエナプラン教育ってなかに？」というテーマで暮らしや子育てのお話を。あれやこれやおしゃべり形式の会でした。

2021年1月15日@zoom イエナプランオンライン交流会
支部としての今後の活動について意見交換を行いました。

《今後の予定など》

2021年3月15日 イエナプラン教育ミニ勉強会@平塚（予定）

（報告：菊池萌）

【長野（中信）支部】

長野県の中信地区で勉強会やイエナカフェを行っています。日本の公教育を新しい時代に合ったものに変えていくことを目的に、イエナプラン教育から学びながら、進んだ教育をたくさんの方に知ってもらえるように活動しています。池田町の「NEXT IKEDU」や松本市四賀地区の「四賀新しい学びの会」の活動へも協力させてもらっています。

9月6日 イエナカフェ for キッズ（池田町創造館）

「あったらいいな こんな学校！！ みんなでつくる ちっちゃな夢の学校」

（池田町のNEXT IKEDUさんと共同企画 ファシリテーターとして参加）

中信支部で初の子ども向けイエナカフェを開催しました。小学生が理想の学校について語り合い、その模型をみんなで作って表現し、発表するというワークショップです。イエナプラン教育の考えをたくさん取り入れた体験活動で、異年齢の集団の中で、対話と協力を大切にして、個性と創造性を発揮しながら、楽しい時間を過ごすことができました。参加されたお子さんや保護者の皆さんにもご好評をいただき、地元新聞などにも取り上げられました。

1月17日 四賀新しい学びの会（松本市四賀地区） アドバイザーとして参加

2月28日 四賀新しい学びの会（松本市四賀地区） アドバイザーとして参加



（報告：瀧澤輝佳）

【長野（佐久穂）支部】

毎回少しずつ違うメンバーで集まり、いろいろな話をしながらイエナプランを学んでいます。日本イエナプラン協会と支部の関係や他の支部との繋がりについても皆で考えています。

最近は町の公民館で集まることが多いです。近くにお住まいの方、20の原則を読んでおしゃべりしたり一緒に活動しましょう。ご参加お待ちしております。

- ・ 9月23日（水）DVDを見る会
- ・ 第3回 イエナカフェin佐久穂 10月12日 20の原則(3)を読んでおしゃべり
- ・ 第4回 イエナカフェin佐久穂 11月12日 20の原則(4,5)を読んでおしゃべり
- ・ 第5回 イエナカフェin佐久穂 1月20日 20の原則(6,7)を読んでおしゃべり
- ・ 第6回 イエナカフェin佐久穂 2月19日 20の原則(8)を読んでおしゃべり

《次回活動予定》

3月17日（水）20の原則(9)を読む

（報告：山ノ井芙美）

【愛知（名古屋）支部】

愛知（名古屋）支部では、昨年から定期的に学校の先生たちと共同で企画し開催しているイベント「学ぼうイエナプランつながろう仲間と 楽しもう実践を『ゆるりと実践発表会』」をオンラインで2回共同開催することができました。『ゆるりと実践発表会』は、その名の通り、発表者も参加者もゆるりとした心持ちで参加できる気軽な実践発表会です。発表者は回ごとに変わっていきます。また参加者は学校の先生に限らず、興味のある方はどなたでも参加できます。イベントでは、参加者がイエナプラン教育の「20の原則」をじっくり読んで対話した後、発表者がイエナプラン教育をもとにした実践発表を行いました。参加者は、発表者それぞれの実践が「20の原則」とどうつながっているかなどを考え、その後対話を通して交流しました。

特に今回は、実践発表をする回だけでなく、「サークル対話について対話する」という回も開催させていただきました。イベントでは、“サークル対話って？”、“そもそも対話って？”、“コロナ禍での対話って？”、“オンラインでサークル対話は可能なのか？”などについて対話しました。

今後も、対話を重ねながらイエナプランを学び続けていける活動をしていきたいと思います。

《活動日、内容の報告など》

- ・ 2020年12月27日（日）
「学ぼうイエナプランつながろう仲間と 楽しもう実践を『ゆるりとスピノフ』～サークル対話について対話する～」（オンライン）
- ・ 2021年2月7日（日）
第3回「学ぼうイエナプランつながろう仲間と 楽しもう実践を『ゆるりと実践発表会』」（オンライン）



《今後の予定など》

今後も、学ぼうイエナプラン つながろう仲間と 楽しもう実践を 『ゆるりと実践発表会』をオンラインで、定期的に共同開催していく予定です。

(報告：若杉逸平)

【広島支部】

イエナプランを手がかりに「広島の教育をもっと楽しいものにしたい」「もっと子どもたちがいきいきとしたものにしたい」「先生たちがもっとやりがいを実感できるようにしたい」という想いで広島支部を立ち上げました。現在、さまざまな学校での実践報告をもとに学びを深めています。

今後も、「まずはやってみよう！やってみなければ分からない」ということを大切に活動していきます。今後もよろしくお願いいたします。

《活動日》

2020年

9月 8日（火）～29日（火）第2回ワールドオリエンテーション授業実践

9月 9日（水）ミニ勉強会（オンライン）

9月23日（水）ミニ勉強会（オンライン）

9月26日（土）第2回勉強会（福山市立大学）13:30～16:30

テーマ『イエナプランから学ぶ本当の子ども主体とは』

12月19日（土）第3回勉強会（福山市立大学）14:00～16:00

テーマ『異年齢での学びを考える』

2021年

2月27日（土）第4回勉強会（オンライン）13:30～15:30

テーマ『ワールドオリエンテーションを取り入れた「総合学習」の実践』



《今後の予定》

4月中 第5回勉強会（オンライン）企画中

5月中 第6回勉強会（福山市内キャンプ場）企画中

(報告：野島崇志)

【福岡支部】

コロナ禍で対面での開催がむずかしかった今期は、オンラインでの開催となり、これまでと少し趣向を変えた勉強会を行いました。

テーマは「8つのミニマムを原典（オランダ語）で読む」でした。初めての試みで、難しさも感じていたので、全8回（月に1～2回）に参加する事を条件にメンバーを募集してプチクローズドな会としました。最終的には7人のメンバーで、グーグル翻訳を片手にああでもない、こうでもない、と試行錯誤する会となりました。単語一つひとつに深く向き合う作業は、本当に得ることの多いおもしろい取り組みでした。8月から始めて全10回に及び1月に無事終了しました。

《今後の予定》

次回は、3月6日13：00～15：00@オンラインです。

この会からは『イエナプラン実践ガイドブック』を読む会を行います。

（報告：久保礼子）

【オランダ支部】

オランダ支部は現在、オランダ在住メンバー2名、オランダ元在住メンバー3名の計5名で活動しています。メンバーはそれぞれ、教育系大学院修了もしくは在学中、イエナプランスクールで教員として勤務中など、さまざまな形で教育に関わりを持っています。

昨年9月以降の支部の活動は、ロックダウンが続いているオランダ国内の状況や、支部メンバーがオランダ内外に点在しているという現状を鑑み、オンラインでの勉強会を主に行っています。勉強会は各メンバーが持ち回りで企画をしており、9月・11月・そして12月の3回にわたり、それぞれのメンバーが興味のある時事ネタなどをきっかけに、イエナプラン教育20の原則について話し合い、理解を深めてきました。

例えば12月の勉強会では、「教育における平等とは何か（平等のジレンマ）」というテーマで、日本で加速している個別最適化された学び・GIGAスクール構想についてのディスカッションを通じて、20の原則でも大切にされている「自分らしく成長していく権利」について考えていきました。後半はオランダ人のゲストも参加し、オランダ語・英語・日本語を交えながら、オランダの教育システムについても話が及ぶなど白熱した議論となりました。次回の勉強会は4月に実施予定です。

今後も引き続き、支部内での勉強会を継続するとともに、オランダで得た学びや気づきを、支部通信等を通じて、支部外にも積極的に発信していきたいと考えています。

（報告：吉田由里香）



各支部のご案内

・北海道（帯広）支部	hokkaido@japanjenaplan.org	久保利佳
・宮城支部	miyagi@japanjenaplan.org	本川良
・埼玉支部	saitama@japanjenaplan.org	田村悠子
・千葉（浦安）支部	chiba@japanjenaplan.org	山田順子
・東京（世田谷・中野）支部	setanaka@japanjenaplan.org	浅野聡子
・東京（多摩）支部	tama@japanjenaplan.org	新堀貴子
・神奈川（湘南）支部	syounan@japanjenaplan.org	菊池萌
・長野（中信）支部	matsumoto@japanjenaplan.org	瀧澤輝佳
・長野（佐久穂）支部	sakuho@japanjenaplan.org	山ノ井芙美
・長野（南信）	nanshin@japanjenaplan.org	手嶋美穂
・長野（アルプス）	alps@japanjenaplan.org	マカリスター・セツ
・愛知（名古屋）支部	nagoya@japanjenaplan.org	若杉逸平
・愛知（豊田）支部	toyota@japanjenaplan.org	安藤順
・関西（大阪）支部	osaka@japanjenaplan.org	東稔 治義
・兵庫（神戸・明石）支部	koubeakashi@japanjenaplan.org	末永静
・広島支部	hiroshima@japanjenaplan.org	野島崇志
・福岡支部	fukuoka@japanjenaplan.org	久保礼子
・沖縄支部	okinawa@japanjenaplan.org	山川宗仁
・オランダ支部	oranda@japanjenaplan.org	山地芽依

※関西（大阪）支部はメールアドレスが変わりました。

